

第1幕第1場：森の中

魔女達が妖しげな歌を歌い輪舞している。其処に、マクベスとバンクォーが通りかかる。魔女達はマクベスにコーダの領主となり、スコットランド王になると予言し、バンクォーには王の父親になるであろうと予言し消える。其処に使者が現れマクベスがコーダの領主になった事が告げられ、二人は魔女の予言が当たった事に驚く。そしてマクベスの心には野心が燃え上がる。

第1幕第2場：マクベスの居城の入り口の大広間

マクベス夫人はマクベスから来た予言に付いての手紙を読み、自らの心にも野心が燃え上がるのを抑えきれない。召使いが登場し、今夜ダンカン王が此処に宿泊することになったと告げる。夫人はそれなら今夜こそ国王暗殺の好機と叫ぶ。

(マクベス夫人のシェーナとカヴァティーナ、カヴァレッタ)

マクベスが帰って来る。夫人は今夜のうちに短剣で王を殺せと囁く。王の一行が到着する。夜、マクベスの前に短剣の幻が浮かぶ。(マクベスのモノローグ)

物に憑かれたようにマクベスは王の寝室に入る。暫くして血のついた短剣を持って出てきたマクベスは殺人の恐ろしい光景を妻に語る(マクベスとマクベス夫人の二重唱)

夫人は夫を元気づけ、酒を飲んで寝込んでいる衛兵に血を擦り付けて二人は逃げ去る。朝早く王の部屋に来たマクダフとバンクォーは惨殺された王を発見し驚愕する。その場に急いで駆け付けた人々はあまりの事に恐怖に顔を引きつらせる。人々は神に殺人者を罰するように叫び幕となる(コンチェルタート・フィナーレ)

第2幕第1場：城内の一室

マクベスは王となったが、バンクォーの子供が王になるとの予言に不安を感じ、夫人と語らってバンクォー一家を暗殺することにする。夫が去った後、夫人は邪魔者は総て消すのだと歌う(マクベス夫人のアリア)

第2幕第2場：マクベスの城に近い庭園、夜

刺客達がバンクォーとその息子を待ち伏せて木陰等に隠れる。其処へ通りかかったバンクォーは不吉な予感に襲われる(バンクォーのアリア)

刺客が現れるとバンクォーは自分が犠牲となり息子を逃がす。

第2幕第3場：マクベスの城の大広間

祝宴が開かれマクベス夫人が乾杯の音頭をとる(乾杯の歌)

その席に刺客が戻りマクベスにバンクォーは殺したが息子は取り逃がした事を告げる。バンクォーの亡霊がマクベスの席に座っているがマクベスにしか見えない。マクベスは取り乱し夫人が元気づけるが祝宴は空虚なものになる。人々はマクベスのはたらいた悪事を察する(第2幕のフィナーレ)

第3幕：魔女達の洞穴

魔女達が大釜を煮立て、妖気に満ちた歌を歌い不気味な踊りを踊っている。

(魔女達の合唱とバレエ)

マクベスが現れ魔女達に助言を求める。魔女達はマクダフに気を付ける事、女から生まれた者ではマクベスに敵うものは無い事、バーナムの森が動かぬ限り戦争に負けることは無い事を告げる。マクベスはなおも、次の王にはバンクォーの息子になるのかと魔女に詰め寄ると魔女達はそれに答えず、歴代の王の亡霊を地下から現れさせ、最後にバンクォーが現れる。マクベスは恐ろしさに気絶する(幻想出現の大シェーナ)

マクベス夫人がマクベスを捜して現れる。気が付いたマクベスは夫人にその予言の内容を話し、マクダフとバンクォーの息子を殺すと叫ぶ。(マクベスとマクベス夫人の二重唱)